
ささくれ

喜多河 済

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ささくれ

【Nコード】

N3116K

【作者名】

喜多河 済

【あらすじ】

逸話。気軽に読んでください。

その男は暗くて、湿ったにおいのするアパートの一室に住んでいた。顔は特徴もなく、どこか人をいらだたせるような顔。男は仕事と住居を転々としていた。そのため近所づきあいもなく、全体的に暗いイメージの男となっていた。

「今日も腹がすいているなあ。といっても、なにか食べられるものがあるわけでもないし…」

男はそうつぶやきながら腹をさすった。その時、腹になにやらこぶのようなものがあることに気付いた。あまり大きくないため、今まで気がつかなかったのか。男は裾を上げ、なかを覗き込む。

「痛みは感じないが……」

男はさつきよりも強くこすってみた。すると、その小さなこぶは簡単に取れてしまった。やはり、何の痛みも感じない。

「このところ、体に異常が多いな。頭が急に腫れだしたり、右足のあちこちにささくれができたり…。これも生活の不摂生のあらわれなのだろうか……」

男はつかれているようで、言葉の語尾をため息のように発していた。そのためか、余計に男の周りは湿った、暗い雰囲気になっているらしかった。

「ごめんください」

玄関に声がした。こんな生活をしている男に来客は滅多になく、男は半ばあわてたようだ。

「すこし、待ってください…」

男は急いで部屋を片付け、きちんとした服を着た。ちょっとした用事でなかったら、とてもいやな気分になるだろう。

「お待たせしました」

男は扉をあける。そこに立っていたのは、前の会社の上役だった。男は本当にあわてた。

「あ、あの…」

「いやあ、前の話だがね。会社が急に倒産しそうになってね…」

上役はすこし言いづらそうに言う。話を聞くと、こういうことだった。

男は前の会社で、よくできる同僚が急に休みになったために、社の重大な会議に参加することとなった。そこで、男はなにかを発言しなくてはならないと思い、思いつきで案を言ったのだ。そのときは周りの反応は浅く、それがきっかけでくびになったといっても過言ではなかった。

「それで…」

男はたずねる。にぶいため、ここまで言っても気づかないのだ。

「つまりな、また入社してほしいと社長がおっしゃっているのだ」

男は喜ぶ。ちょうど、仕事を探していたところだ。さっそく、入社手続きを終えた。

男は優遇され、あっという間に重役となってしまった。男がまたも良い案を出した時に、今度は社長が死んでしまった。みなは悲しみ、男も葬儀の進行をした。すると、それがまた評価された。そして、あっという間に社長。

男は快樂に浸っていた。高級なワインを飲み、夜景をたのしんでいた。

「世の中には、ふしぎなこともあるものだな」

男はつぶやき、かゆかった腹をかいた。すると、小さな衝撃が体に伝わった。

「うん…」

男が見ると、この一年付き続いていたかさぶたが取れていた。とたん、男は青ざめる。

「もしかすると…」

もしかすると、男がここ一年間ついていたのは、これのおかげかもしれないのだ。

「大変なことをしてしまった…」

いつの間にか、語尾も元に戻っていた。ため息のようなしやべりかた。不幸のもともかもしれない。

「ああ…」

それから男がどうなったのかは、だれも知らない。

「…ですから、こういった現象はないと言い切れないのであります」
大学教授は言った。ある講堂。生徒はみな、熱心に聞いていた。

「これで、講義を終えようと思います」

その教授は、成功の真っ只中にあつた。貧乏のさなかにでたらめで、やけくそに書いた本が売れ、あつという間に教授の座にまでのし上がった。毎日が、たのしい。

自室に戻る途中、教授は右手の甲をかいだ。そこには、ワイシャツで隠れた、ささくれがある。それは、消えてゆく途中にあつた。しかし、教授はそのことに気付いていない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3116k/>

ささくれ

2010年10月21日22時15分発行